

大いに気になるキーワード

「格差社会の不健康」

◇ 社会の所得分配の不平等を測る指標として「ジニ係数」が有名である。格差が無い<等しい収入>状態を「0」、究極格差<一個人が収入を独占>を「1」としている。

◇ そのジニ係数を比較してみると、先進国の中では市場原理を尊重する米国では、1967年の0.397と1979年の0.404は大きな差はないが、市場原理を重視したレーガン政権により係数増加傾向が強まったといえる。英国では、1979年からのサッチャー政権で貧富の差が拡大した。1997年以降になりこの格差は正に組み組んでいる。

◇ 日本においては1995年以降米国を上回る勢いで格差拡大が進んでいる。これは、意図的に格差拡大を助長する施策をとってきたといえる。典型的なのは「労働派遣解禁」である。

◇ ここで英国の平均余命を見てみよう。図は専門職から非熟練労働者にわたる平均余命の推移であるが、6種の階層のいずれも20年間の間には延びている。これは時代とともに医療技術が進歩してきた結果を考えた場合、当然なことと思いがちであるが、各階層の差が経時的に拡大していることが問題である。1972～76年では階層IとVの差は5.5年であったが、1992～96年では9.5になり20年間で4年に拡大したこととなる。

◇ 同様なことは米国でも報告されている。米議会予算局報告によると社会層を10段階に区分けしたとき、1980～2000年の20年間に最上層と最下層の平均余命の差は1.6年拡大したとしている。

◇ 2008年にハーバード大学のグループが発表したデータを見ると衝撃的である。全米を2068の地理的区分に分けた平均余命によると、1961～83年には平均余命が低下した地域はなかったが、1983～99年には男性で、11女性で180の地域が有意に低下したそうである。それはミシシッピ川流域、アパラチア山地など米国でも極貧地帯といわれている地域に集中しており「貧しさが命を縮める」段階に入っていると言われる。

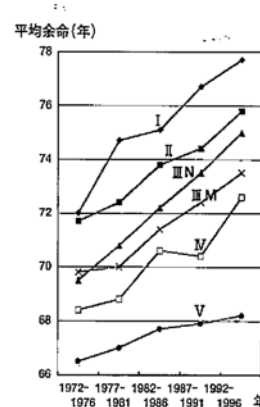
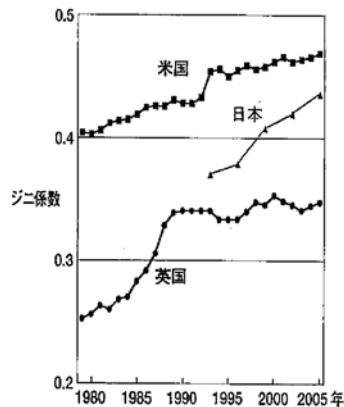
◇ 先に、日本は米国を上回る勢いで格差拡大が進行していることを示したが…さて、日本は？

◇ WHOは「格差症候群<status syndrome>」の名付け親であるマイケル・マーモットを長とする「健康の社会的決定要因に関する委員会」を2006年に組織している。

◇ 日本においては、格差対策に躍起となっている英国に比べ格差の度合いがはるかに大きく、最近ではサッチャー時代に匹敵するスピードで格差が進行しているにもかかわらず、国民にわかりやすい明瞭な政策が示されていない。

前号から、医療界新聞により「格差社会の不健康」を紹介してきたが、この項では以下のようにまとめられている。

※ ジニ係数 ⇒ 4Pを参照のこと



ジニ係数の比較<左図>と英国社会階層平均余命

I: 専門職、II: 管理職・技術職、III: 熟練非肉体労働、III M: 熟練肉体労働、IV: 半熟練労働、V: 非熟練労働

- ◆ 社会的経済格差は健康に甚大な害を及ぼすだけでなく、格差が拡大すれば健康被害も増大する。
- ◆ 日本ではここ十数年、急速に格差が拡大した。
- ◆ そのため、今後更に格差に基づく健康被害が増大する。
- ◆ 国民の健康を守るために日夜励むのは、全ての医師にとり義務であり、健康に害になるものは排除しなければならない。

<参考: 医学界新聞>

さて、過日、現在厚労省は医師不足に対応するために、医療機関における「医師でなくても実施可能な業務」として、カルテ記載などを通知した。また、今後、「臨床研修2年間」問題で、深刻な医師不足解消に向けて、論議を開始する模様である。更に、民主党では、医師不足の解消のためとして臨床検査技師による視力測定の見学資格を与えるなどの業務拡大の議論を始めたことも報じられている。各団体のヒアリングも予定されているようであるが、次期総選挙への“マニフェストづくりに繋げる”という報道が正しければ許せるものではない。

一方、薬剤師「薬剤師余り」を懸念し、厚労省の第3回薬剤師需給の将来動向に関する検討会において、東北薬科大学高柳理事長は、「医療人としての薬剤師を考えると…採血ができる…バイタルチェックができるということで聴診器を持って病棟を回れば、心構えが違ったものとなる」と発言したことが報道されている。また、東南アジアから介護士を受け入れ、すでに施設に投入され業務を開始しており、意思の疎通を図る「言葉」の問題が指摘されている。

我々は、法律的には“極限られた医療行為”のみが許されているわけであるが、このように我々を取り巻く「環境」の変化に向けた抜本的な改革が必要である。

この項次号へ

お知らせ

平成 20 年度 環境問題対策研修会

今年度公益特別事業として平成 20 年 10 月 5 日に予定しておりました「全国献血促進普及啓発活動—安全な輸血療法に関する研修会」は、会場の都合により、延期することとなりました。そのため、今年度新たに設置されました環境問題検討委員会において、地球温暖化に伴う臨床検査への影響を多角的に検討した結果、平成 20 年 11 月 9 日に予定しております「全国感染症予防及び撲滅対策活動—院内感染予防対策研修会」を「臨床検査を取り巻く環境問題」として総合的な研修会を開催する予定です。

日 時: 平成 20 年 11 月 9 日(日) 午前 10 時～
会 場: パシフィコ横浜 会議センター大ホール
テーマ: 臨床検査を取り巻く環境問題

- ・地球温暖化が引き起こす感染症・臨床検査による環境破壊対策
- ・グローバル化による職場環境対策…等

詳細は・・・
「医学検査 10 月号」・「会報 JAMT 10 号」
でお知らせします!